

あの部活に入りたい！  
気になる部活  
調査隊 57

子どもには、熱中できる部活に入ってもらいたい。  
そんなお父さんお母さんに、学校名物のあんな部活やこんな部活をご紹介します！

調理体験を通じて  
おもてなしと  
工夫の心を育む



文化祭では役割分担で責任ある行動を学ぶ。調理やお菓子づくりの楽しさを体験できる家庭部。部員たちは月曜日にミーティングを行い、火曜、水曜は調理実習に取り組んでいます。調理の腕が上がって家族にほめてもらったという部長の成田侑里花さんは「先輩や顧問の先生方からのアドバイスや、家でお菓子をなどをつくるタイミングでも役立ちます」と語り、重左衛門利さんもそれにならないうちで「卒業生で調理手の栄さんも頼りになる存在。困ったときに優しく手を差し伸べてくれます。こんなに活動日が続く嬉しい部活動はないです」と話します。そして、日頃の活動成果の見せ場で

るとなるのが、秋の文化祭。上級生と下級生が組んで班をつくり、調理だけではなく、展示作品の制作や会場の飾りつけなどを協力して行います。展示作品のお菓子の家の制作を担当した中畑涼菜さんは制作時を思い返して「何も無い土日に少しずつお菓子の家を建て、形ができていくうれしさは、経験しないとわからない喜びでした」と満足げな表情。そして「たっさんのクッキーを焼いたり袋詰めしたりするのは大変だったけど、やって良かった」と言う鏝屋花奈さんや「来てくれた人が、おいしいと言ってくれたのが忘れられない」と語る池田可成さん。各部長が楽しい思い出を振り返ります。文化祭に向けた活動では、お菓子づくりそのものだけでなく、さまざま

な役割が部員の成長を促しています。「お菓子の家のデザインをする際、皆がアイデアを出してくれて、より良いものになりました」（嶋村萌さん）「会計係として生徒会に予算を交渉しました。自分の意見をしっかりと述べて相手に理解してもらったことの大切さを学びました」（黒崎優菜さん）「展示作品に関しては、見栄えを考えた紙粘土や接着剤を使ったりもしています。より魅力的に見せる工夫をする楽しさを知りました」（関理那さん）部員たちの言葉に耳を傾けていた顧問の石村智寿子先生からは、家庭部の活動の狙いが語られました。「お菓子づくりの技術向上の先に目指すのは、生活をデザインし、日々を豊かに生きる力を身につけることです」

お菓子づくりの技術を学べて、おいしく食べて、たくさんの楽しい仲間ができるなんてとても幸せだと思いますか？料理やお菓子の好きな人、集まれ！



右：栄涼子さん（調理助手）  
中：松井真佐美先生（顧問）  
左：石村智寿子先生（顧問）  
右：鏝屋花奈さん（副部長・高2）  
中：成田侑里花さん（部長・高2）  
左：池田可成さん（副部長・高2）



部員の目標

校外での体験活動を積極的に行っていくのが今後の目標。本年度はのりすき体験だったそう。今後は、房総の太巻き寿司やほうとうづくりにチャレンジしていく予定だとか。



部員の必須アイテム

学園祭のたびにオリジナルのエプロンを制作しておもてなし。来場者に「かわいい！」と好評を得ている。本年度は、「和カフェ」にちなんで矢絨をあしらったデザイン。



部員の自慢

お菓子を使った作品を展示するのは、毎年の文化祭の恒例。部員の力作が来場者の目を引く。クッキー販売や和風カフェでのかき氷の提供も大勢のお客さんを喜ばせている。

部活プロフィール

設立……1950年  
部員数……122名  
活動日……月～水  
活動歴……文化祭での展示・発表、夏休みの体験活動



跡見学園中学校高等学校  
家庭部